

冒険あそび場だより



かわる～遊び場づくりの深化～

仙台市内の復興公営住宅の全戸完成など「すまいの復興」が進んだ2016年度、プレハブ仮設住宅での活動を終えるとともに、現地再建地域での遊び場活動を本格化させました。一方2011年度から継続する遊び場も、役割を変化させつつ多様な交流を生み出しています。



「六郷あそび場」の様子。六郷中学校隣接の移転先に暮らす児童など、六郷東部地域からの転居者も遊びに来ています。2016年度、東部の現地再建地域に戻った家庭の子が「近くに遊ぶ子が少ないので」と毎週のように保護者に連れられて遊びに来るなど、プレハブ仮設住宅解体後の「受け皿」になっているという側面も見られます。「東六郷小であそぼう」とも連携し六郷小と統合予定の東六郷小をつなぐ場としての役割も意識して取り組みました。



ささえる～地域住民のサポート～

地域住民自らが取り組んでいくことで、震災で生まれた遊び場づくりも長く続いていくものになっていきます。冒険あそび場ネットではそのような動きを応援してきました。

「上荒井公会堂あそびば『ちびひろ』」の様子。2016年4月より遊びに来ている保護者主体の運営が始まりました。同様に自主活動に取り組むグループとの学習会なども経ながら、一年間試行錯誤を重ねてきました。1月からは運営に関する話し合いを定例化し、住民自らが描く遊び環境の実現に着手に進んでいきました。



つながる～他団体との連携～

地域から寄せられるニーズを受け、これまでの活動のなかで関係を築いてきた団体と連携して、それぞれの強みを生かして遊び場づくりに取り組みました。

宮城野区田子西二丁目公園でNPO法人にじいろクレヨンとともに開催した遊び場の様子。田子西地区は沿岸部からの集団移転先や復興公営住宅が大きな割合も占める「新しいまち」です。両団体それぞれに仮設住宅時代からの人のつながりがあったため、他にも地区内の2か所で連携して遊び場や交流サロン「お茶のこさいさい」を定期開催しました。

〔冒険あそび場ネットが中心になって取り組んだ遊び場〕

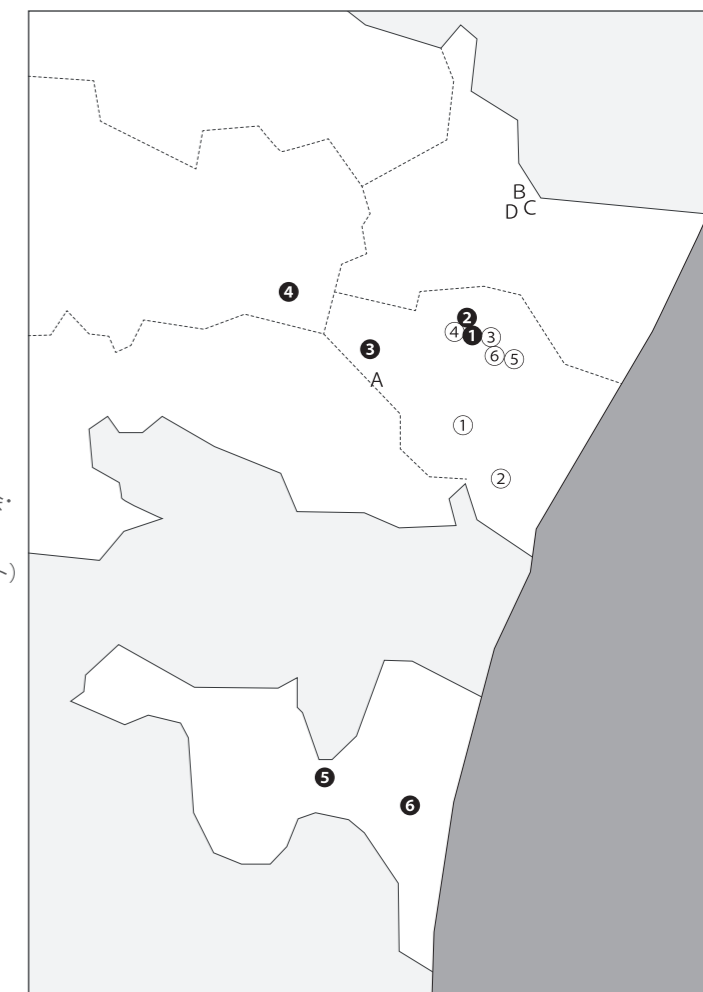
- ①六郷あそび場
- ②東六郷小であそぼう
- ③七郷あそび場
- ④伊在二丁目公園あそび場
- ⑤荒井東復興公営住宅のひろばであそぼう
- ⑥下荒井公会堂であそぼう♪

〔地域住民主体の遊び場づくりのサポート〕

- ①上荒井公会堂あそびば「ちびひろ」(上荒井周辺の住民をサポート)
- ②ままだばかほえ(伊在周辺の住民をサポート)
- ③ふるじろプレーパーク(ふるじろプレーパークの会をサポート)
- ④のりっぱであそぼう(西公園プレーパークの会と連携して花壇大手町子ども会・片平地区まちづくり会をサポート)
- ⑤里の杜あそび場(にこにこキッズと連携していわめあそび場の会をサポート)
- ⑥楽農村であそぼう(朝どり+楽農村をサポート)

〔他団体と連携して取り組んだ遊び場〕

- A 若林小あそび場
(仙台市立 若林小学校・若林区中央市民センター・若林児童館と連携)
- B 田子西こだま町内会 お茶の子さいさい
(田子西こだま町内会・NPO法人にじいろクレヨンと連携)
- C 田子西三丁目 お茶の子さいさい
(田子西三丁目町内会・NPO法人にじいろクレヨンと連携)
- D 二丁目公園で遊ぼう!
(田子西中央町内会・NPO法人にじいろクレヨンと連携)





まちに出た「ぼうひろ」から 生まれたこと

冒険広場をまちの中へ

東日本大震災で被災した子どもの心のケア

冒険あそび場ネットが2005年から運営してきた仙台市沿岸部の「海岸公園冒険広場」は、東日本大震災で大きな被害を受け、今に至るまで休園しています。「七郷あそび場」は、冒険広場が担っていた役割の一つ「子どもの自由な遊び場の提供」を担うため、やや内陸に入った荒井4号公園で、2011年9月より毎週土曜日に開催しています。*

自分のやりたいことをして自分のペースで過ごせる場、ありのままにいられる場、という遊び場の特性は、被災した子どもの心のケアの視点から見ても大きな意味を持ちます。七郷あそび場は、震災以降の子どもの状況に寄り添って活動を展開してきました。

※ 2011年11月より仙台市から「海岸公園冒険広場サテライト業務」として受託

上／荒井4号公園は七郷小学校・七郷児童館・七郷市民センターに隣接し、多くの子どもが集まりやすい立地となっています。周辺には震災発生後、被災した沿岸部の子どもたちが数多く移り住んできました。下／遊びの素材をたくさん積んだ「プレーカー」が到着すると、あっという間に子どもたちが集まってきて思い思いの遊びが展開されていきます。



右／裸足になって泥の感触を楽しむ子どもたち。雨の日でも子どもたちは七郷あそび場に遊びに来ます。泥をチョコレートに見立てて「ケーキ」をつったり、雨水が流れる「川」や「池」をつくったり、雨の日だからこそ楽しめる遊びを子どもたちは持ち前の想像力を総動員して見つけます。下／誰かが声をかけたわけでもないのに、自然とたくさんの方が集まって盛り上がった綱引き。七郷あそび場では、様々な年代の子どもたち、そして大人たちが、遊びを通してつながっています。



地域の子の出会いの場

見守る大人の輪もひろがる

まちの中の公園というオープンな場での遊び場の展開は、幼児から中高生まで子どもの間で学年を越えたさまざまな出会いを生み出しました。自らがありのままに受け止められる場で子どもたちは、知らない子同士も一緒に遊ぶことを楽しんだり、ごくごく自然にお互い助け合ったりもするようになっていきます。また地域の大人と子どもが交流する場ともなりました。近年必要性が叫ばれている「地域の居場所」としての役割を果たしています。

七郷あそび場はまた、七郷小おやづの会、小学校、児童館、市民センター、保健センター等、地域の団体・関係機関と連携した取り組みも重ねてきました。相互を行き来する人の流れも生まれ、それぞれに集まる住民も含め、子どもを見守る地域の輪を形成してきました。

下／七郷小学校4年生の防災安全科「やってみようボランティア」への協力の様子。地面を掘ったり、水を流し入れたり、飛び込んだりして楽しむ子どもたち。同校は2013年度から2016年度までの4年間、文部科学省から指定され、震災の教訓や体験の継承を目的とした「防災安全科」の研究開発に取り組んできました。この授業も、震災復興支援活動のことを知り、その中で自分は何をできるのか考えるものです。遊び場づくり活動にかけてきた思いや、子どもが元気になることが大人の元気につながることで、失敗してもいろんなことに挑戦してみようというメッセージを伝えました。子どもたちは後日、「もっとみんなに伝えよう」とポスターづくりなどにも取り組んだそうです。右下／七郷市民センターの主催事業「七郷子どもクラブ」の一環として七郷小おやづの会が企画したペットボトルロケットをつくるワークショップに協力したときの様子。



被災地域における生き物調査

調査は6年目になりました。いま、海岸公園冒険広場とその周辺の環境は大きな改変が加えられています。冒険広場は駐車場・デイキャンプ場の盛り土工事が進められています。周囲では海岸防災林の植樹地の整備が進められています。そんな中、震災前とほとんど変わらない環境を維持している場所があります。冒険広場の樹林や竹藪、笹藪です。このような環境では小鳥が哺乳類や猛禽類といった捕食者に襲われるリスクが低くなります。周囲の植樹地が十分に成長するまで、冒険広場は小鳥たちにとって大切な居場所になると考えられます。



ふるさとの杜再生プロジェクト

今年度も、仙台市が主催する「ふるさとの杜再生プロジェクト」連絡会議の一員として、様々な活動に取り組みました。

8月29日は七郷小学校4年生160名とともに海岸公園冒険広場周辺の貞山堀で実生苗を採取しました。同校敷地で2年間育てた後に、採取した場所に戻す予定です。

11月23日は若林区の二木地区で開始から4年目となる「仙台平野と居久根再生～大内さんちのイグネ再生プロジェクト～」を実施しました。4年間育てた樹苗や被災跡地の実生を含めた60株を移植した他、花畑にクロッカスの球根300個を植え付けました。FEELSendai主催「せんだい環境ユースカレッジ」参加者や市民有志とともに、造園家の指導を受けながら取り組みました。



海岸公園冒険広場が2018年度に再開します

2011年3月11日に津波被害を受けて以来休園中の海岸公園冒険広場ですが、いよいよ2018年夏に再開する見通しとなりました。2015年度の避難の丘整備に続き、2016年度からは、西側敷地のかさ上げ・再整備工事が進められています。2015年3月で私たちの指定管理業務は終了したものの、「海岸公園冒険広場サテライト業務」は引続き仙台市より委託されており、「七郷あそび場」を中心に海岸公園冒険広場が担っていた自由な遊び場の役割を担っています。また、再開の見通しなど公園の状況を案ずる震災前からの利用者に対し、周囲の様子も含め現状を伝え続け、また前記みどりの再生活動なども含め、再開後の公園への橋渡しになるよう努めました。震災発生後6年がたち、幼稚園児も中学生になるほどの時間がたっていますが、しっかりとつながりを保ち続けています。



講座等の開催

開催地域	タイトル	日付
仙台市	乳幼児パパ・ママのための子育て講座「絵本とのつきあい方」(七郷市民センター) 【講師】横田や 横田 敬子 氏	11月12日
	乳幼児子育て相互学習会「なければつらくろう! 子育て環境!!」(七郷市民センター) 【話題提供者】岩沼市 ちびぞうくらぶ・てづくりようちえん あおぞら	12月2日
	プレーリーダー養成講座「子どもの〈遊び環境〉の復興」(エルソーラ仙台) 【講師】日本冒険遊び場づくり協会 天野 秀昭 氏	12月14日
	みやぎ県民大学自主企画講座「震災から5年 子どもの育ちと心のケア」(七郷市民センター) 【講師】宮城学院女子大学 名誉教授・ケア宮城 代表 畑山 みさ子 氏	1月20日
	みやぎ県民大学自主企画講座「絵本で自分となかなかおり」(七郷市民センター) 【講師】絵本セラピスト協会認定 絵本セラピスト® 相澤 美紀 氏	2月17日
	みやぎ県民大学自主企画講座「頑張らなくていいんだよ、子育て」(七郷市民センター) 【講師】子育てふれあいプラザのびすく仙台 館長 伊藤 仟佐子 氏	3月10日

他団体への協力

内容	団体名
遊び場活動・地域行事協力等	ふるじろプレーパークの会、にじいろクレヨン、いわぬまあそび場の会、にこにこキッズ、日辺まちづくり委員会、上荒井町内会、田子西復興支援者の会、田子西中央町内会、田子西こだま町内会、田子西三丁目町内会、七郷小おやづの会、若林小おやじっ子クラブ、片平地区まちづくり会、花壇大手町ランドデザイン作成委員会、朝どり+楽農村、子どものまち・いしのまき実行委員会、Social Academy 寺子屋、泉中央駅前地区活性化協議会、仙台青年会議所「七夕花火祭特別委員会」、七郷児童館、岩沼東児童館、七郷地区子育て交流会、七郷市民センター、若林区中央市民センター、仙台市農業園芸センター、FEELSendai、せんだい3.11メモリアル交流館、柴田町太陽の村、里山まるごとプレーパーク(大槌町)
講師等派遣	日辺まちづくり委員会、七郷小学校、山形大学、東北学院大学、東北生活文化大学、みやぎ心のケアセンター、大阪ボランティア協会、にっぽん子育て応援団、復興庁
研修・インターン協力	仙台市協働人材育成事業、仙台市若林区若者社会参画型学習推進事業、住友商事東日本大震災ユースチャレンジ・プログラム-インターンシップ 奨励プログラム-2016、東北生活文化大学インターン
視察・見学受入	東北大学ボランティア支援室「仙台市若林区被災地スタディツアー」、仙台市若林区若者社会参画型学習推進事業、東六郷小学校総合学習、東六郷小教員夏休み現場研修「六郷東部地区の防災・減災への取組み」、社の伝言板ゆるる「NPOで高校生の夏ボラ体験」、仙台白百合女子大学中村俊哉ゼミ学生ボランティア受入、若林区まちづくり協議会、わくわくドキドキ5感で楽しむ若林実行委員会

メディア等での紹介

媒体	タイトル	日付
新聞	『避難の丘』第1号完成』/河北新報	5月3日
	「遊び場から元気発信 ～ここから 仙台・東六郷(4)冒険広場～」/河北新報	10月7日
	「遊び場から生まれる地域の絆」/東京新聞	3月21日
その他	「ふるさとの復興について学ぶ東六郷小学校の児童」/仙台市政だより	6月号
	「子どもたちの居場所づくり 地域ぐるみで自由な遊び場を」 /みやぎのボランティア市民活動情報誌 社の伝言板ゆるる	1月号
	「ままばれオススメ! 子育てママお役立ちナビ」/ままばれ宮城版	1月号
	「自由な遊びが心を癒す 被災地回る『出張型遊び場』」/仙台市「東日本大震災 仙台復興のあゆみ」	3月1日

のびすく若林の指定管理者になります

2017年秋、仙台市5番目の子育てふれあいプラザ「のびすく若林」が開館します。私たちは、同館の指定管理者募集に際し、NPO法人せんだいファミリーサポート・ネットワークと共同で、遊びの視点や地域連携を重視した提案を行い、これまでの取組みも評価されて運営者として選定されました。これを契機に、孤立しがちな子育て世代を支えるとともに、外遊びの機会創出も含め、遊びの大切さを伝えていきたいと思ひます。これまで展開してきた乳幼児向けの遊び場ものびすく若林と連携したものとしていきます。



2017年度に向けて

東日本大震災発生から7年目となり、仙台市沿岸部では津波避難施設の整備完了、海岸公園の再開や震災遺構施設のオープンなどのニュースが目立ってきました。海岸公園冒険広場の再開も、いよいよ1年後に控えます。地域コミュニティを見れば、核となる小学校の閉校後に地域をどう活性化するかなど課題も大きく残りますが、ようやく「復旧」から「復興」への歩みを進めつつあります。そんな中、長期的に地域と共に歩むためにも海岸公園冒険広場の指定管理者となることを見据えて、沿岸部での活動を続けていきたいと思ひます。

一方で、遊び環境の課題に加え、いじめ、貧困問題など近年注目される課題も含め、被災地域を越えて取り組むべきことがあります。震災前から続けている遊び場づくりの実践を通して、一つの可能性を示していきたいと思ひます。今年度はまた、指定管理者としてののびすく若林の運営を始めます。これを契機に、乳幼児期からの遊びの大切さを伝えていくことにも力を入れます。巡回型の遊び場の地域住民参画による運営への移行など「震災後」を見据えての取組みを行なっています。



写真: 東六郷小であそぼう

2016年度の助成金・補助金等

- ・中央共同募金会「赤い羽根チャリティホワイトプロジェクト」
 - ・仙台市「海岸公園冒険広場 サテライト業務」
 - ・日本NPOセンター「日産プレジデント基金」
 - ・杜の都の市民環境教育・学習推進会議「杜々かんきょうレスキュー隊プログラム体験実践業務」
 - ・宮城県「宮城県被災者支援総合交付金」事業
 - ・東日本大震災 花とみどりの復興支援ネットワーク「東日本大震災 花とみどりの復興支援活動助成金」
 - ・宮城県「みやぎ県民大学自主企画講座」業務委託
- その他多くの方々からご寄附等の支援を頂き活動しています。ありがとうございます。

発行・編集 認定特定非営利活動法人 冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク

〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-8-17日東ハイツ 405 TEL&FAX:022-264-0667 E-mail:jimukyoku@bouken-asobiba-net.com

初版発行日 2017年6月30日

冒険あそび場ネット 検索